

川北地区 住民アンケート 分析レポート

～結果から何が見えてくるか？～

平成30年12月

NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター

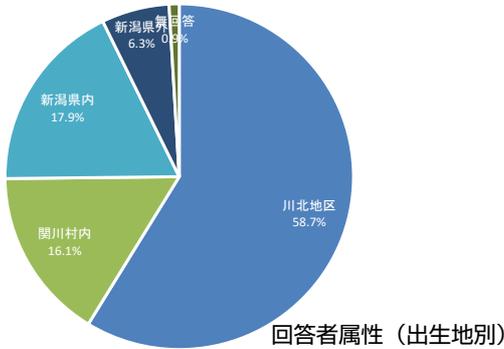
1



2

中学生以上の全住民アンケートの実施

回収数：429通
回収率：約70%



かなりの高回収率！
↓
地域住民の意向がしっかりと反映されているデータである

川北地区 住民アンケート

- 本アンケートは、住民一人一人の考えを把握し、世代別・男女別に日頃思っている考え・意見を整理するため、中学生以上の方に対して行っています。
- 回答は無記名でお願いいたします。
- 回答の結果は、個人を特定しない形で集計・分析し、今後の地域づくりに役立てていきます。
- アンケート用紙は、一人ひとり提出していただきますので、家族で意見が違っても構いません。思ったことをそのまま回答してください。

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるものに○をつけてください。

(年齢) 1. 10～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70～79歳 8. 80歳以上

(性別) 男性 女性

問2 あなたの生まれたところはどこですか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 川北地区 2. 関川村内(川北地区を除く) 3. 新潟県内 4. 新潟県外

問3 あなたの仕事にあてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|-------------------|-------------|
| 1. 農業 | 2. 林業 | 3. 漁業 |
| 4. 自営業 | 5. 会社員 | 6. 公務員・団体職員 |
| 7. パート・アルバイト | 8. 専業主婦(夫) | 9. 中学生 |
| 10. 高校生・高専生 | 11. 大学生・短大生・専門学校生 | |
| 12. その他() | 13. 無職 | |

※学生及び仕事されている方は、以下もお答えください。

問3-2 休日はいつですか？(祝日を除く)

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1. 土曜(毎週)と日曜 | 2. 土曜(隔週)と日曜 | 3. 日曜のみ |
| 4. 平日 | 4. 不定期 | |

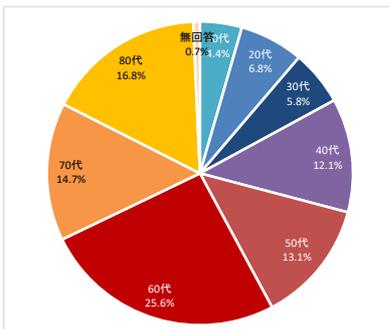
問4 農林業の作業(手伝いも含む)をしていますか。あてはまるものに○をつけてください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 作業をしている | 2. 作業をしていない |
|------------|-------------|

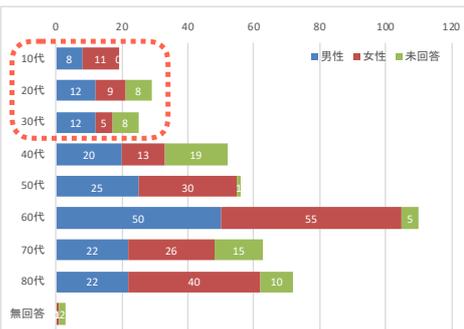
回答者属性

関川村川北地区 (2018)

回答者属性（年代別）



回答者属性（年代別×男女別）

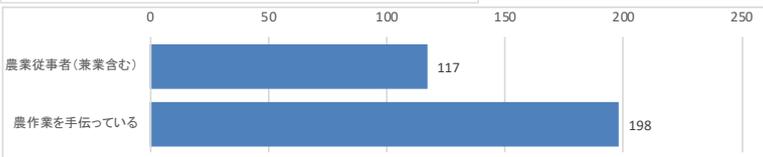
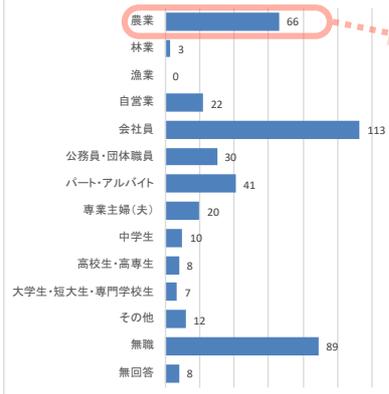


若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。

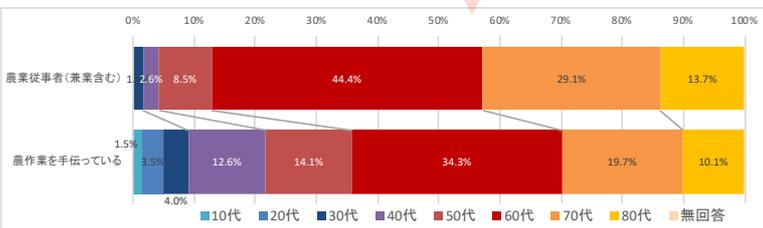


世代別に意見をまとめないと埋没してしまう！

回答者属性（職業）



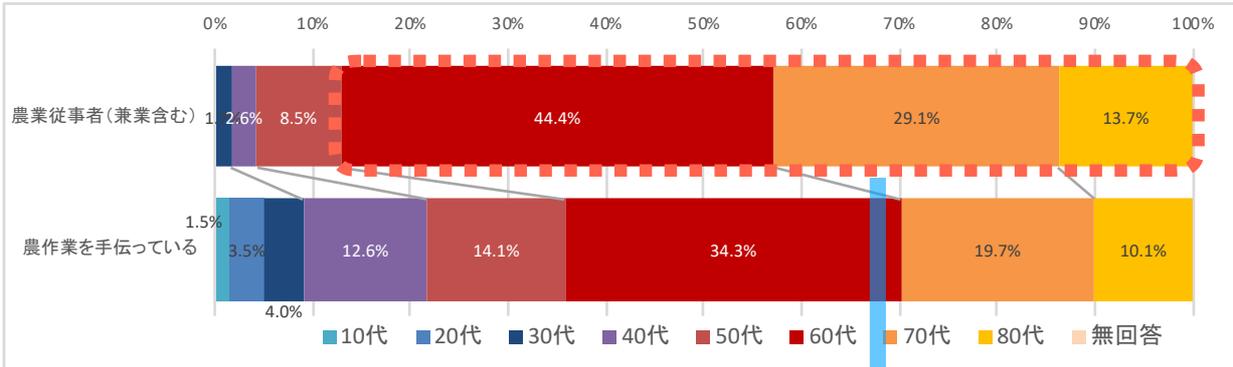
農業従事者数と農作業手伝っている人数の比較



農業従事者の年代構成（割合）

農業従事者の年代構成

関川村川北地区 (2018)



農業従事者の年代構成 (人数)

年代	人数
10代	0
20代	0
30代	2
40代	3
50代	10
60代	52
70代	34
80代	16
計	117

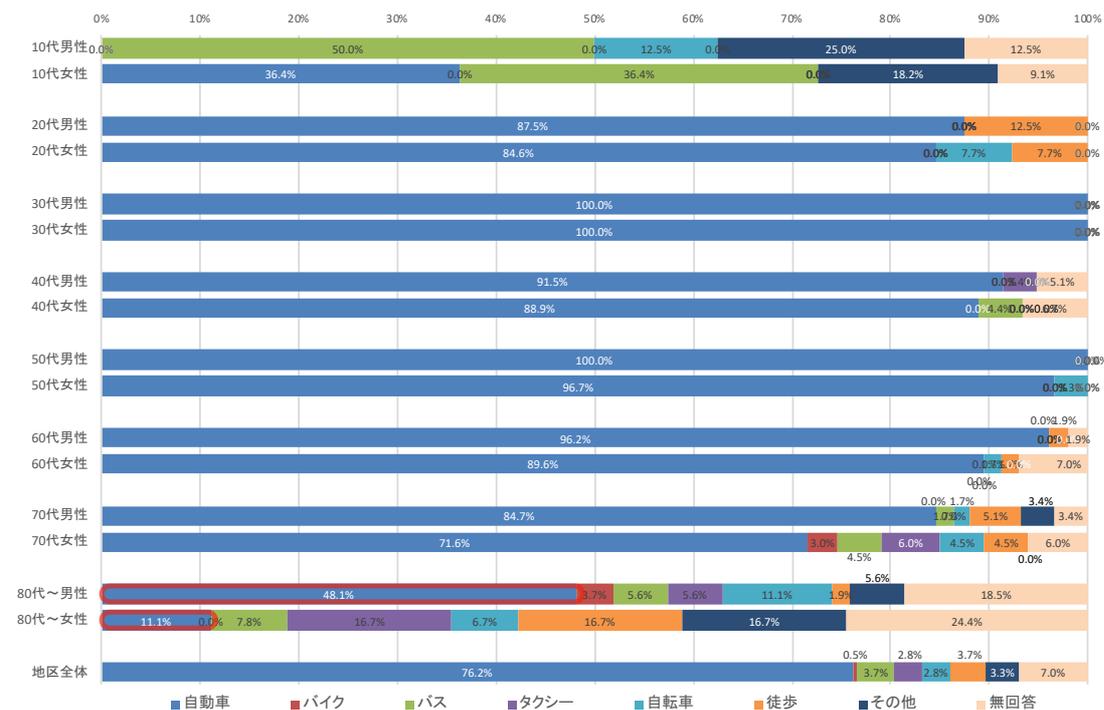
農業従事者の87.2%が60代以上

農地の維持管理はどうなりますか？

20年後は40人程度!?

年代別・男女別の日常的な交通手段

関川村川北地区 (2018)



日常生活での移動が困難になる人の数は確実に増加する
今は運転ができるから困っていないが...

80代になると自分で車の運転をする人の割合が減少

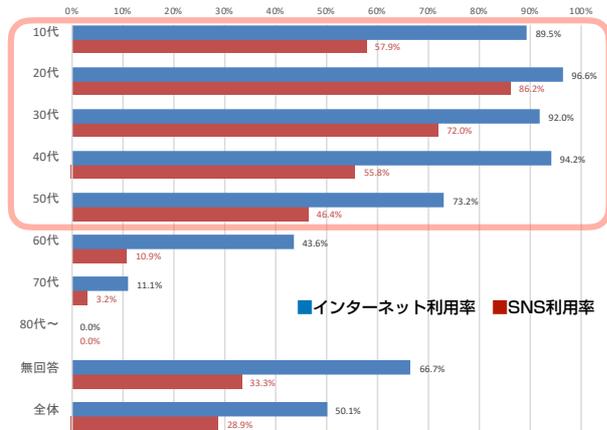
80代女性の運転免許保有率は低い傾向

加齢と共に運転しなくなる人が今後急増

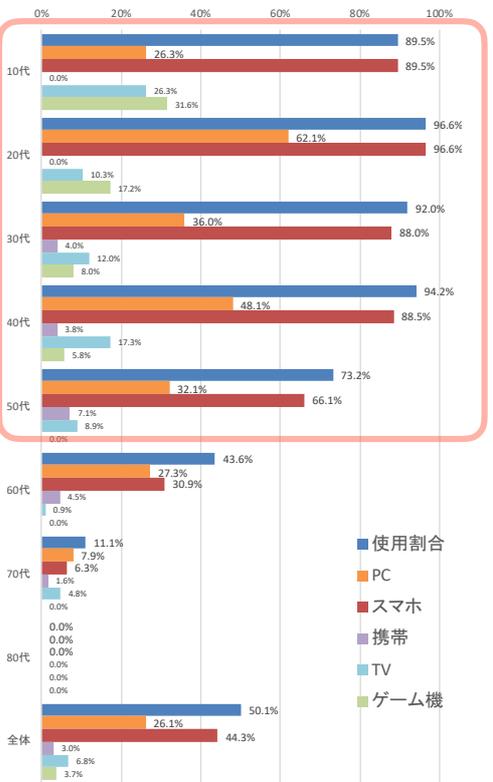
インターネットの利用割合

関川村川北地区 (2018)

年代別インターネットの利用率



年代別インターネット利用における使用機器

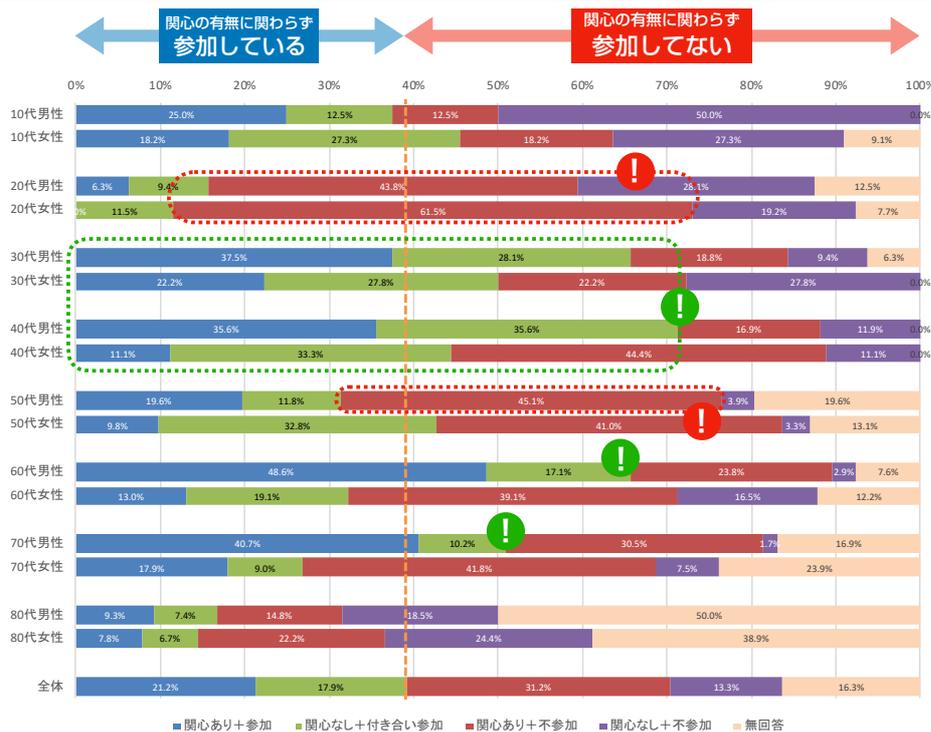


- 全体の半数がインターネットを利用。
- **40代以下は約9割**がインターネットを利用。(50代でも7割以上)
- **大半がスマホ・携帯で利用**している。
- インターネット利用者の**半数以上がSNS**を利用。

50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

地域活動への関心 (年齢別・男女別)

関川村川北地区 (2018)



現状は
**30~40代
60代男性
70代男性**
が頑張っているで回っている。

【注意！】
次の担い手世代である
50代男性は
関心はあるけど参加していない割合が高い！
20代は関心があっても参加していない割合がとても高い。

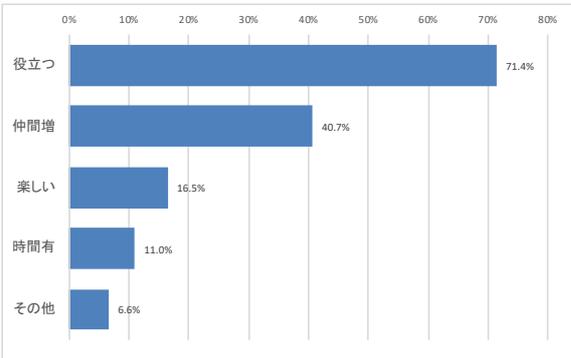
対話を通じて理由を探ることが大切！

必ずしも「地域活動に参加していない＝関心が無い」という訳ではない。女性は「関心があっても参加していない」割合が高い。

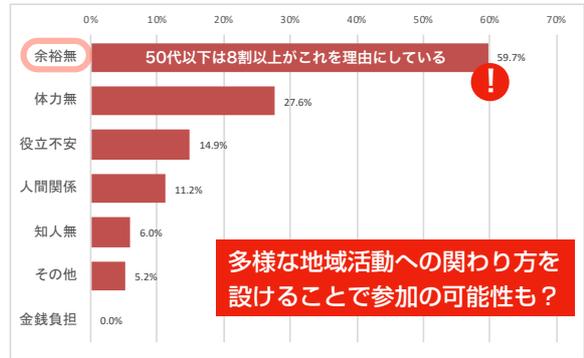
地域活動への関心 (それぞれの理由) ※複数回答

関川村川北地区 (2018)

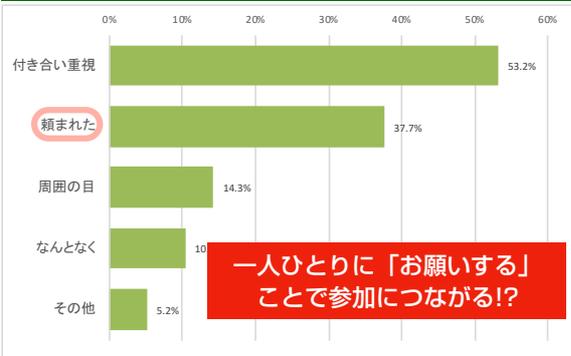
関心あり+参加の理由 (回答数91)



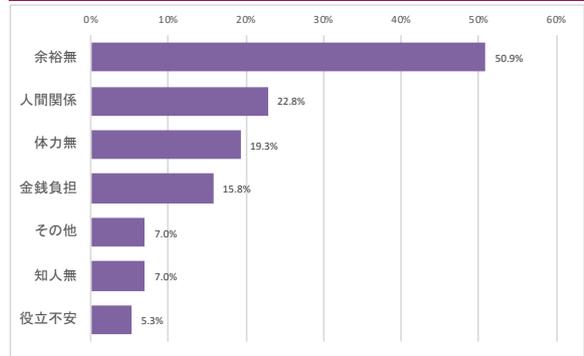
関心あり+不参加の理由 (回答数134)



関心なし+付き合い参加の理由 (回答数77)

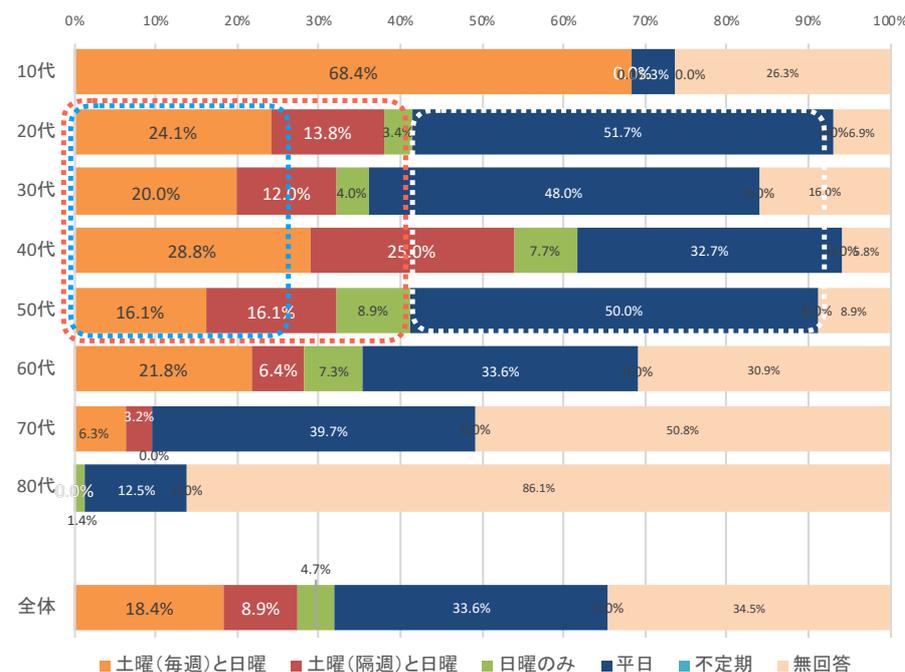


関心なし+不参加の理由 (回答数57)



休日はいつか? (年代別)

関川村川北地区 (2018)



20~50代
土曜日が毎週休み
約2割

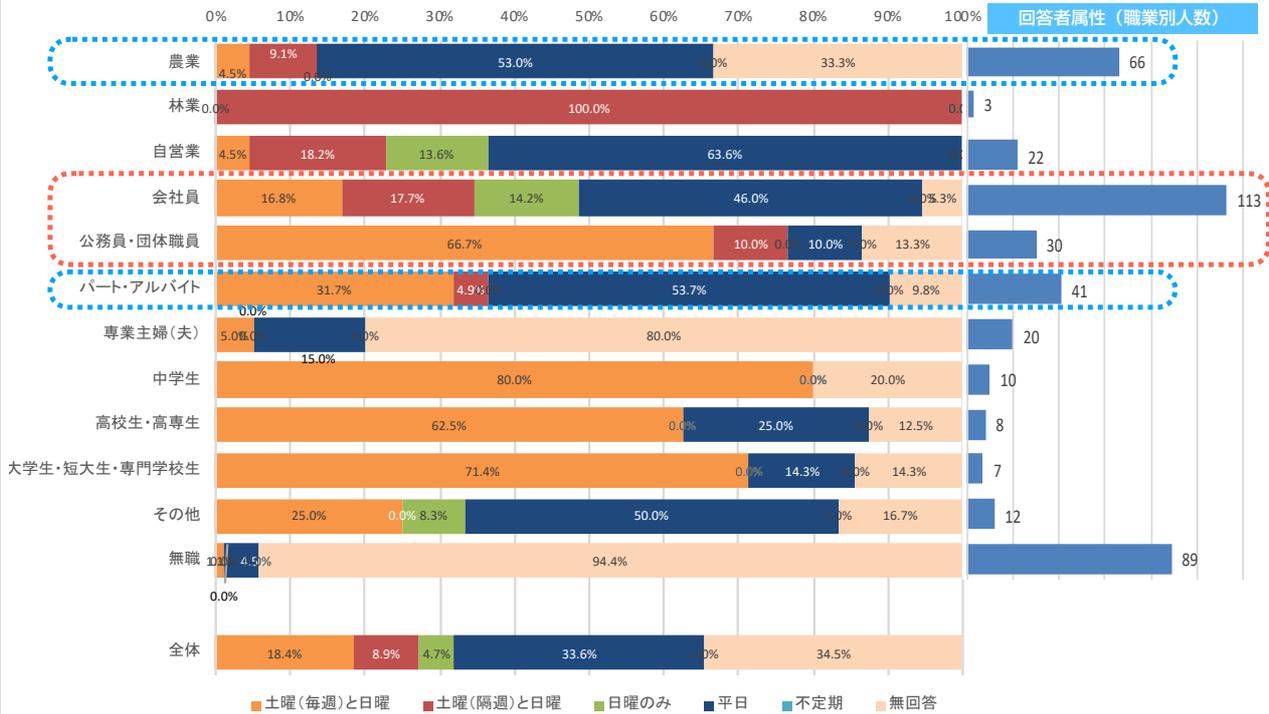
日曜日が毎週休み
約4割

休みが平日・不定期
約3~5割

この世代の参加を求めるのであれば、配慮が必要!

休日はいつか？（職業別）

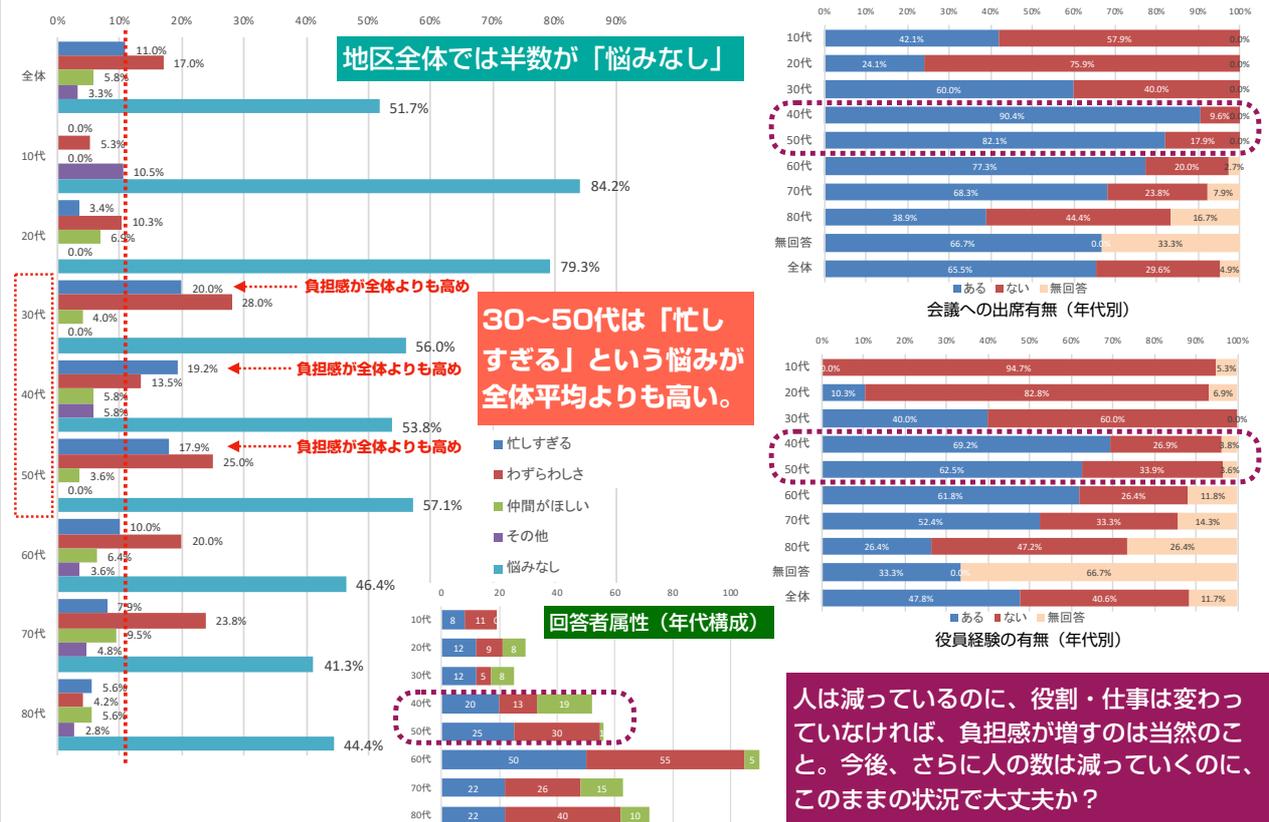
関川村川北地区（2018）



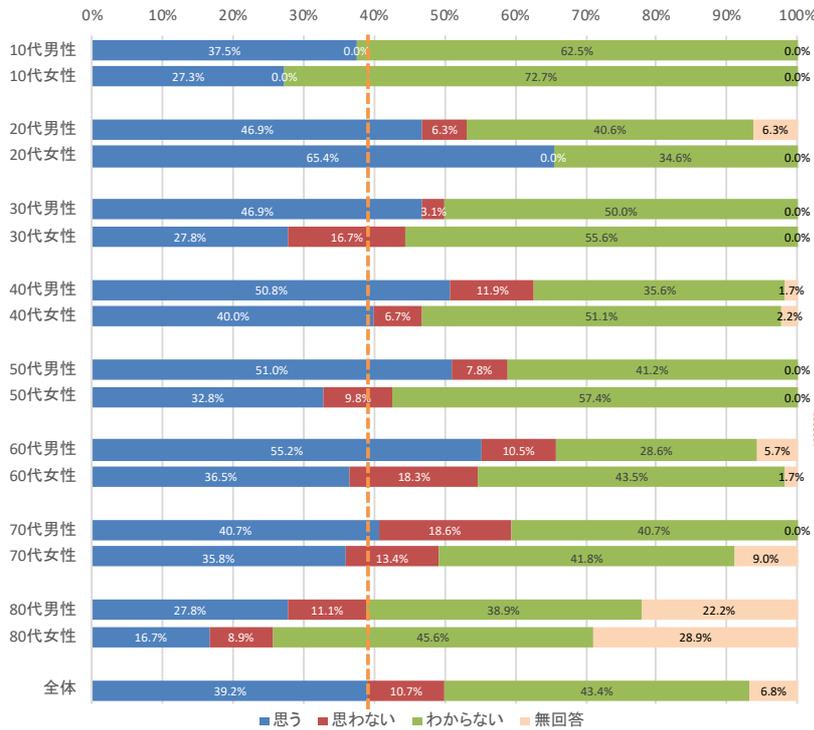
当たり前ではあるが職業によって休日は異なる → 行事・共同作業の曜日設定に配慮が必要

関川村川北地区（2018）

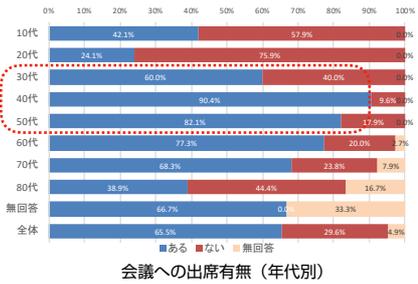
近所づきあいでの悩み／会議出席・役員経験の有無（年代別）



女性・若者の声を反映する必要性 (年代別×男女別) 関川村川北地区 (2018)



【注意！】
 次の担い手世代である
20～50代男性は
 声を反映すべきという割合が
地区平均以上
 ※20代女性も割合が高い！

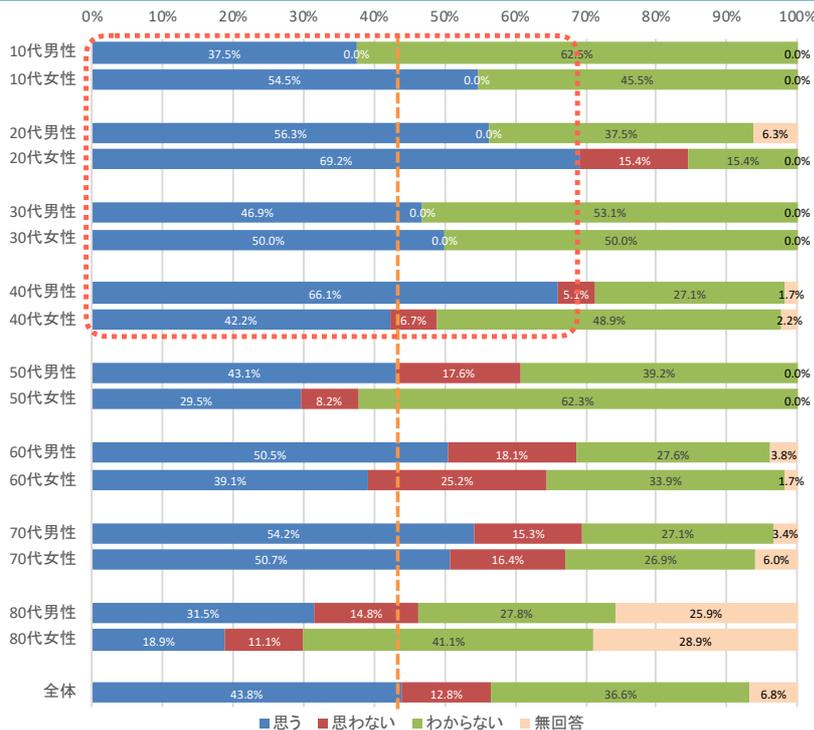


会議への出席有無 (年代別)

30～50代の会議出席経験率は高い
 ↓
 会議のあり方・進め方を見直す必要がある？！

地域全体では、「わからない」と「必要」がほぼ同じ割合
 男性は必要性を感じているが、女性は「わからない」が多い

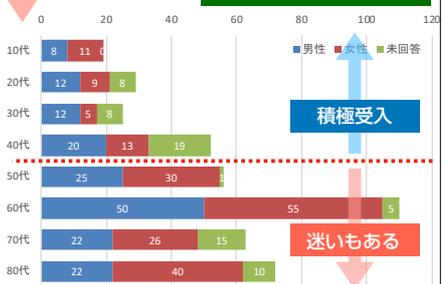
定住受入の必要性 (年代別×男女別) 関川村川北地区 (2018)



受入に対して肯定が強い世代

必要性は感じているが迷いもある世代

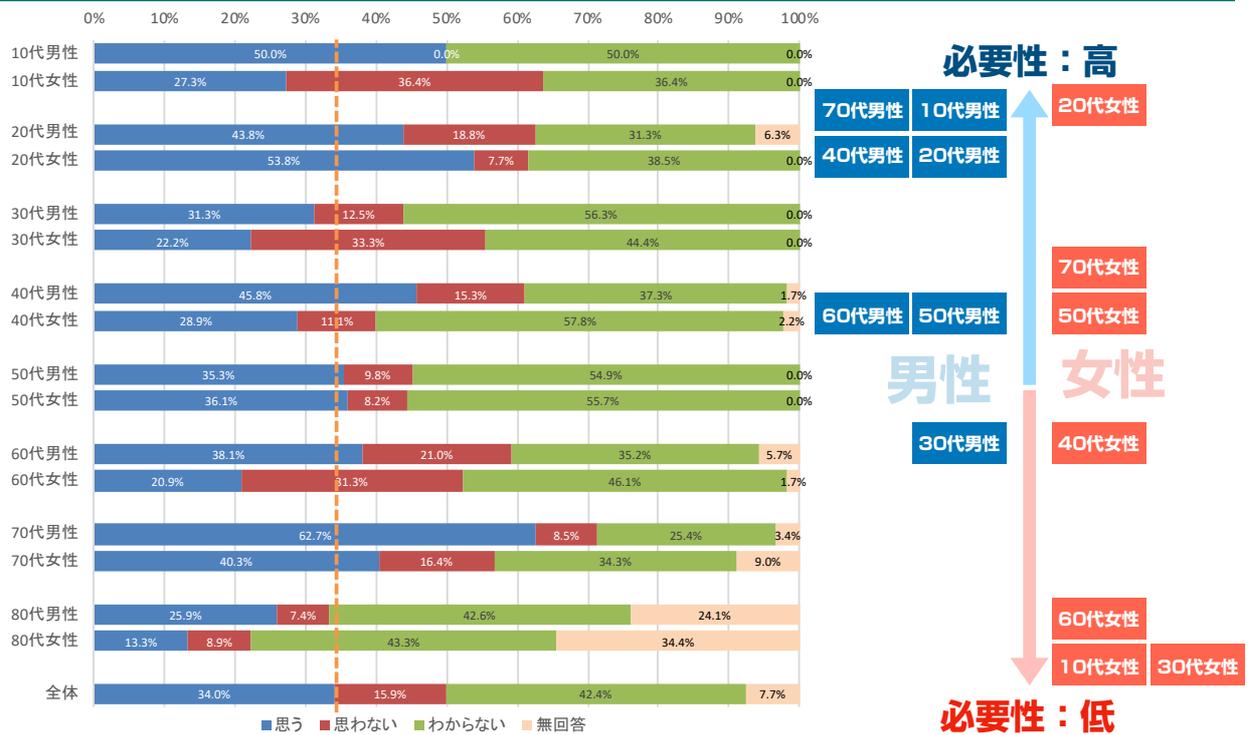
回答者属性 (年代構成)



地域全体では4割以上が「必要」だと思っている。
 40代以下は「必要」という割合が高い。

他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)

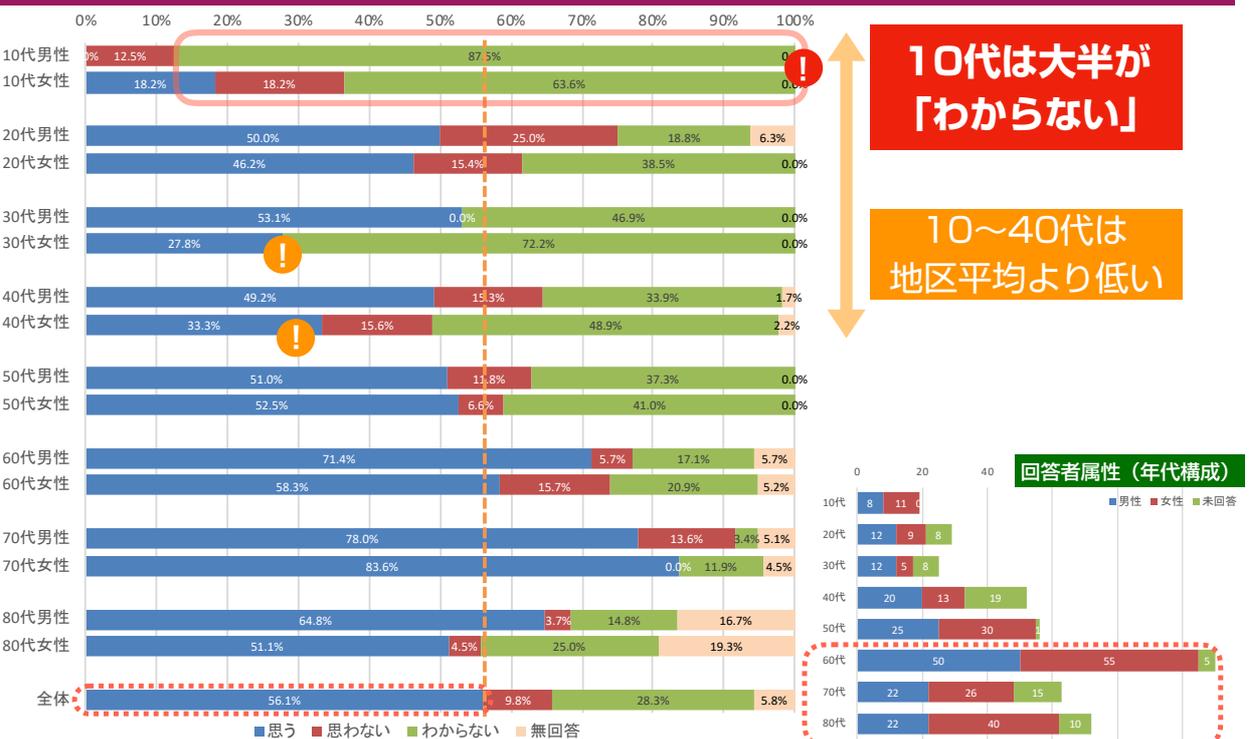
関川村川北地区 (2018)



地域全体では「わからない」という割合が4割。
 世代・男女によって大きく意向が異なっている。

この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別)

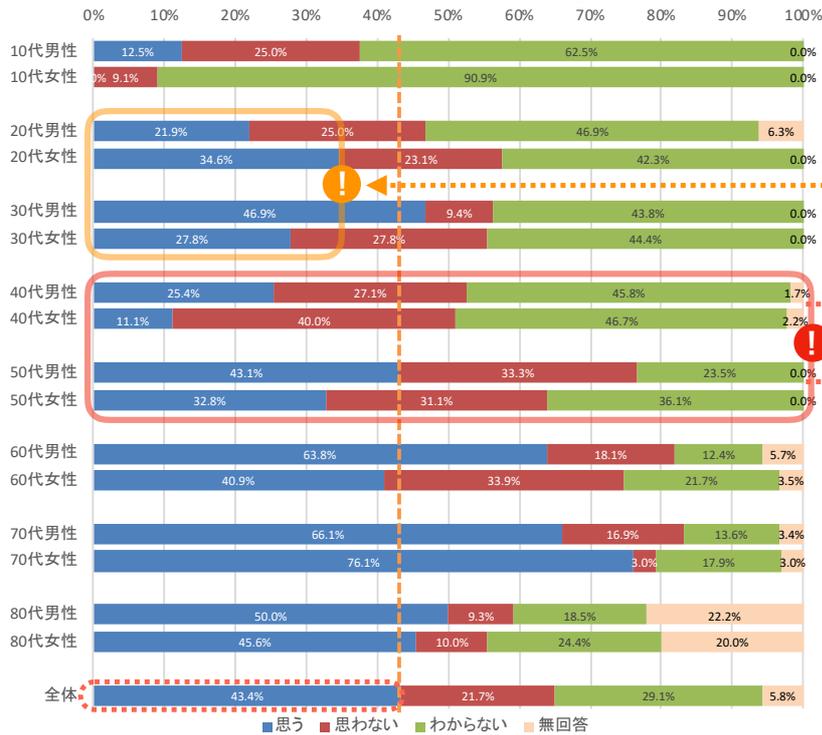
関川村川北地区 (2018)



地区全体では「住み続けたいと思う」は半数以上

多数派の意見が色濃く反映された結果

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ (年代別×男女別)



20~30代も
地区平均より低い

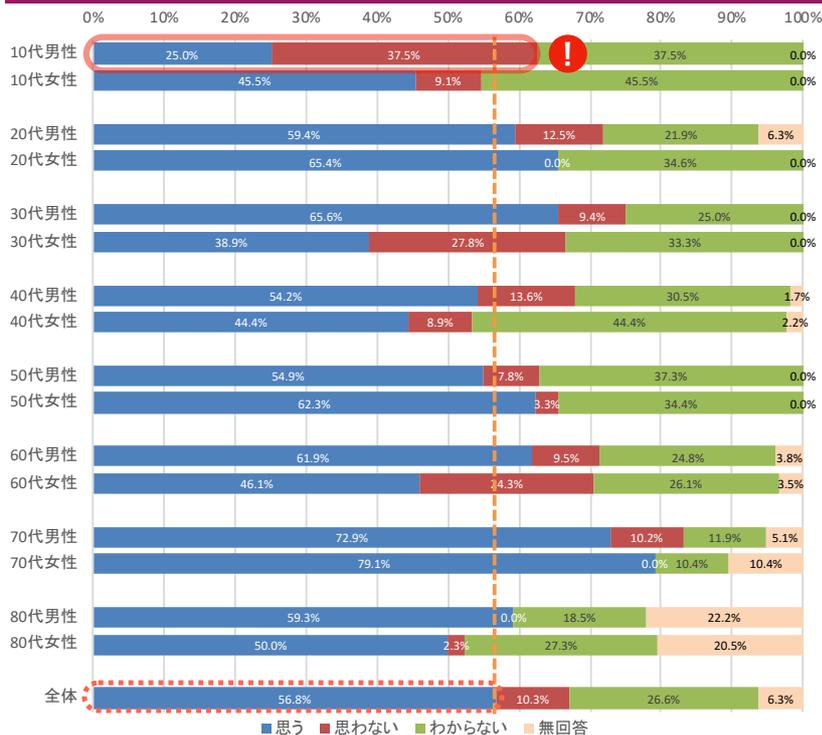
思う < 思わない 40代

思う ≒ 思わない 50代

子育て中の親世代は、
住み続けてほしい
とは思わない
の割合が高い！

地区全体では「住み続けてほしい」は4割以上

地域への愛着の有無 (年代別×男女別)



10代男性の愛着度は
かなり低い

親の影響を
受けている？！

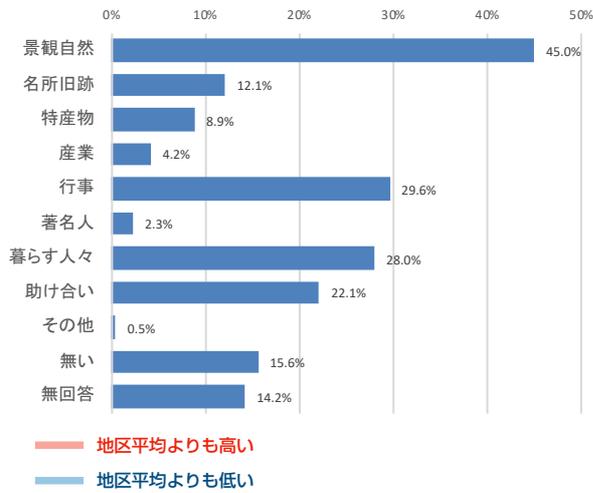
親世代の「自分の子どもにも住み
続けてほしい」と思う割合が低い
ことと関係しているのではないかと

「愛着がある」は56.8%

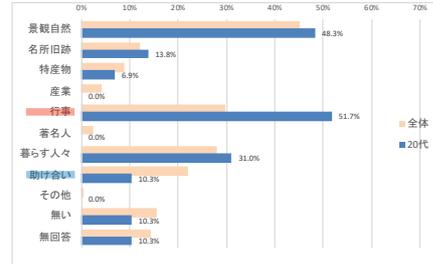
誇りに思う地域資源は何か (10~40代)

関川村川北地区 (2018)

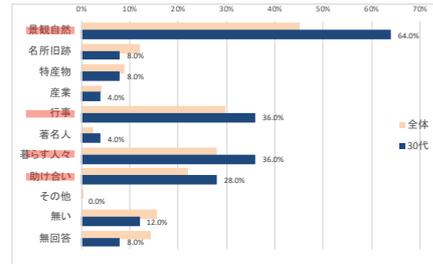
地区全体 (複数回答)



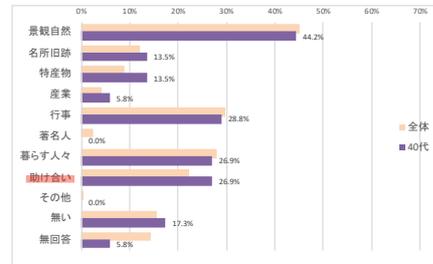
20代



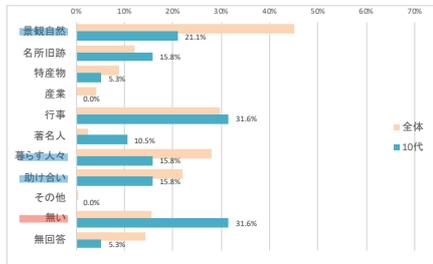
30代



40代



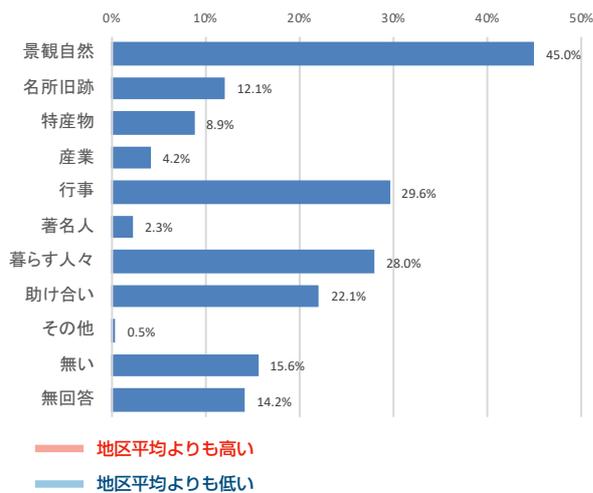
10代



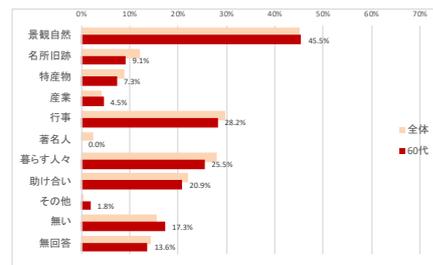
誇りに思う地域資源は何か (50代~)

関川村川北地区 (2018)

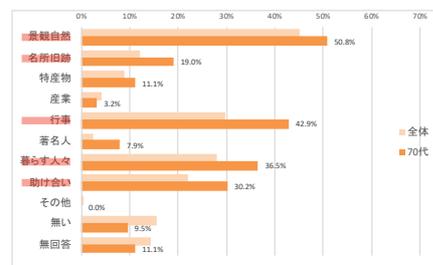
地区全体 (複数回答)



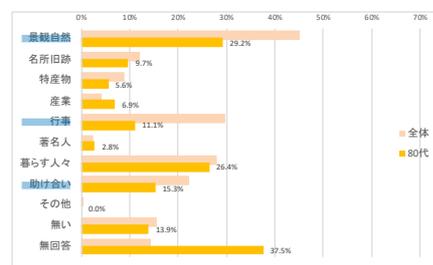
60代



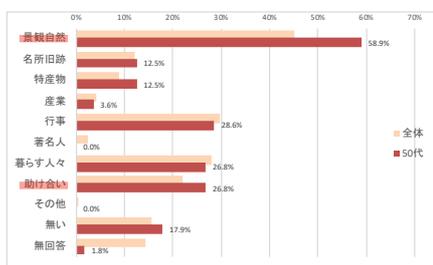
70代



80代



50代



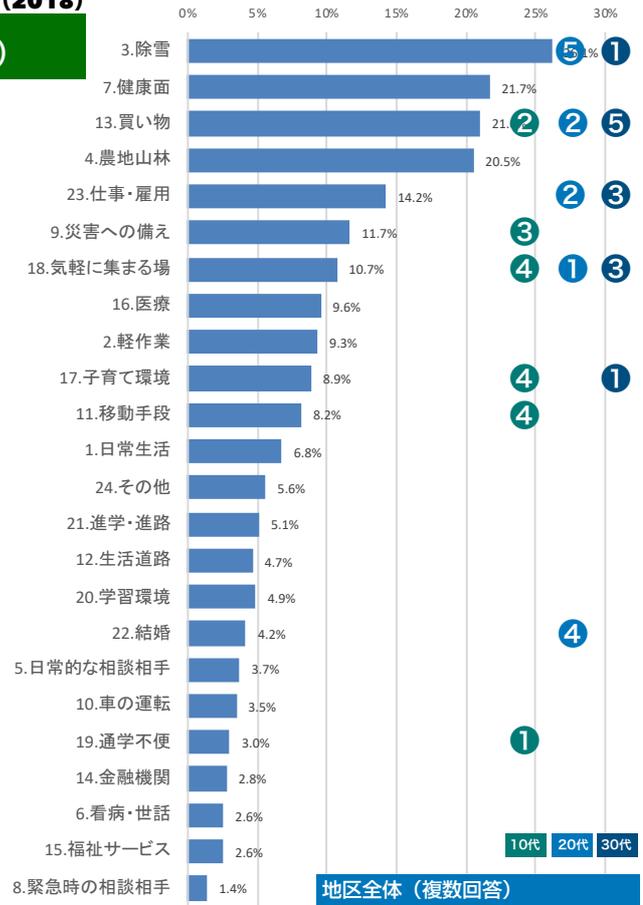
関川村川北地区 (2018)

暮らしの中の困りごと (複数回答)

10代	
1	学校が遠く、通学が不便である 36.8%
2	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 21.1%
3	災害への備えや避難 15.8%
4	買い物・通院などの移手段(交通手段) 10.5%
	少子化による遊び相手の確保など子育て環境 10.5%
	仲間と気軽に集まる場所がない 10.5%

20代	
1	仲間と気軽に集まる場所がない 41.4%
2	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 24.1%
	仕事・雇用 24.1%
4	結婚 20.7%
5	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 13.8%

30代	
1	少子化による遊び相手の確保など子育て環境 40.0%
	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 40.0%
3	仲間と気軽に集まる場所がない 36.0%
	仕事・雇用 36.0%
5	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 28.0%



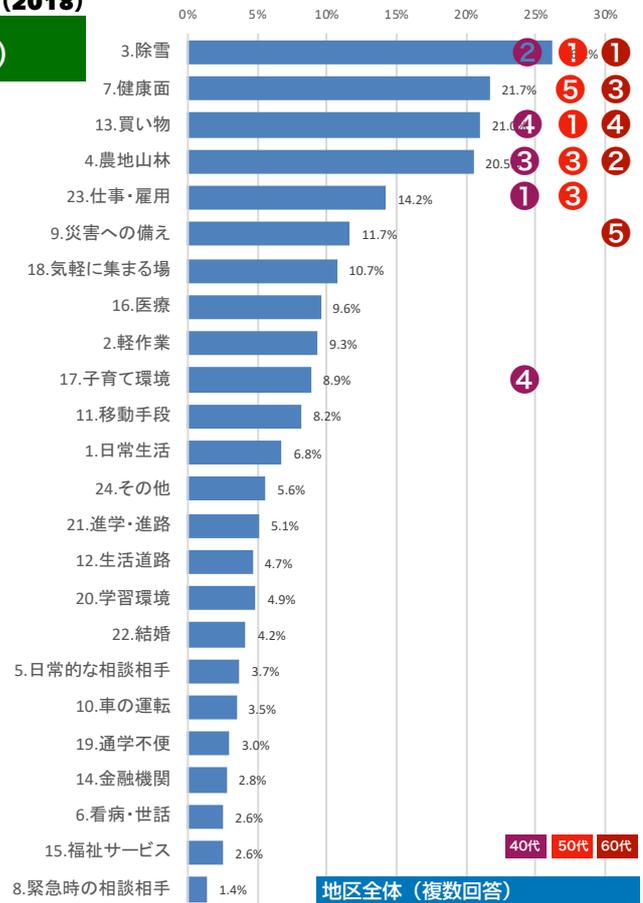
関川村川北地区 (2018)

暮らしの中の困りごと (複数回答)

40代	
1	仕事・雇用 32.7%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 23.1%
3	農地、山林の維持管理 21.2%
4	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 19.2%
	少子化による遊び相手の確保など子育て環境 19.2%

50代	
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 26.8%
	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 26.8%
3	農地、山林の維持管理 21.4%
	仕事・雇用 21.4%
5	健康面への不安がある 14.3%

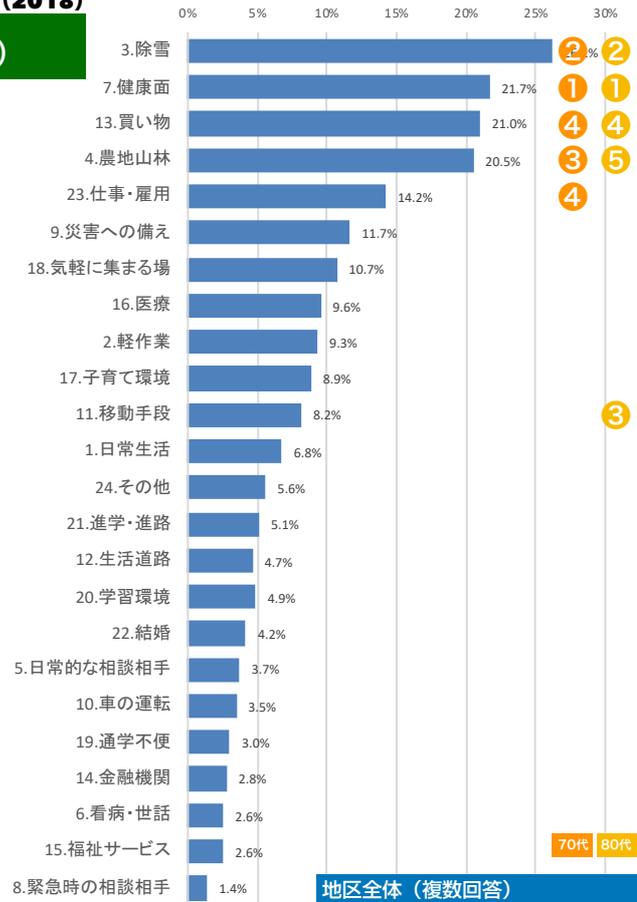
60代	
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 28.2%
2	農地、山林の維持管理 27.3%
3	健康面への不安がある 24.5%
4	コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 20.0%
5	災害への備えや避難 10.9%



暮らしの中の困りごと (複数回答)

70代	
1 健康面への不安がある	38.1%
2 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	36.5%
3 農地、山林の維持管理	34.9%
4 災害への備えや避難	19.0%
コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	19.0%

80代	
1 健康面への不安がある	34.7%
2 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	23.6%
3 買い物・通院などの移動手段(交通手段)	18.1%
4 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便	16.7%
5 農地、山林の維持管理	12.5%



暮らしの中の困りごと (まとめ)

第1位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 26.1%

30代以上で上位にランクイン (30・50・60代ではトップ)

→30~60代は担い手不足への懸念、70代以上は作業自体への不安?

第2位 健康面への不安がある 21.7%

70代以上はトップ (60代でも第3位)

第3位 コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 21.0%

ほぼすべての世代でランクイン →地域全体で共通する困りごと

第4位 農地や山林の維持管理 20.5%

40代以降になると上位にランクイン

全体での順位は
高くないが、
若者・中堅世代
特有の困りごと

第7位 仲間と気軽に集まる場所がない 10.7%

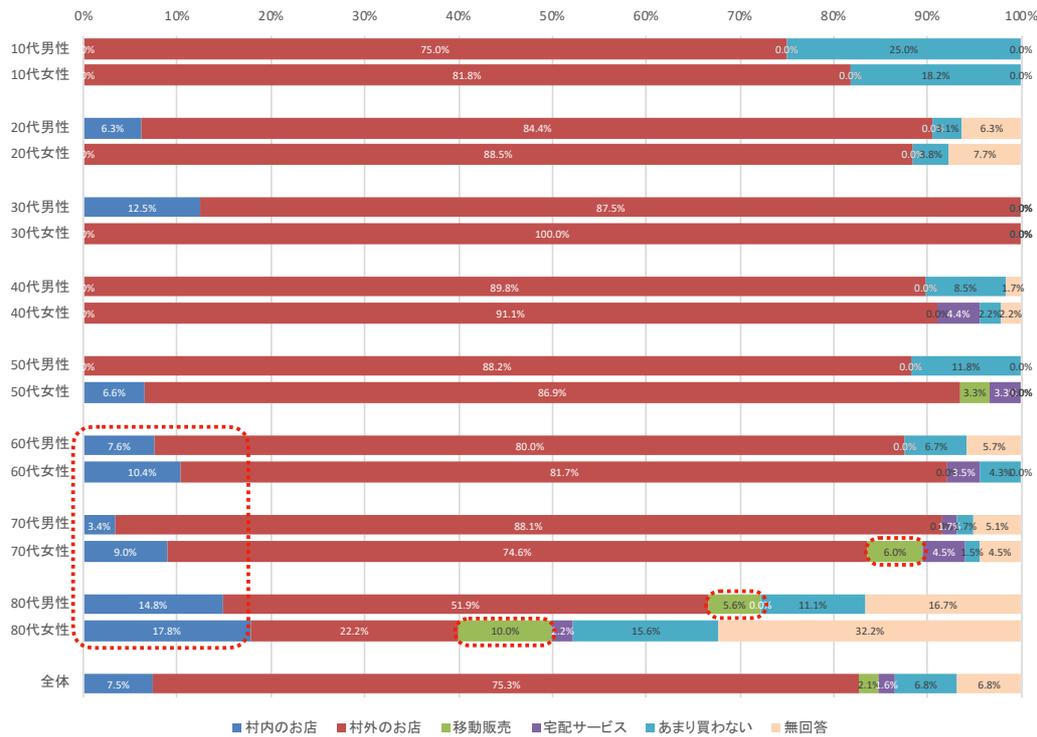
10~30代のみ上位にランクイン →若年層特有の困りごと

第11位 買い物・通院などの移動手段(交通手段) 8.2%

10・80代のみ上位にランクイン →交通弱者年代

生鮮食品の購入場所

関川村川北地区 (2018)

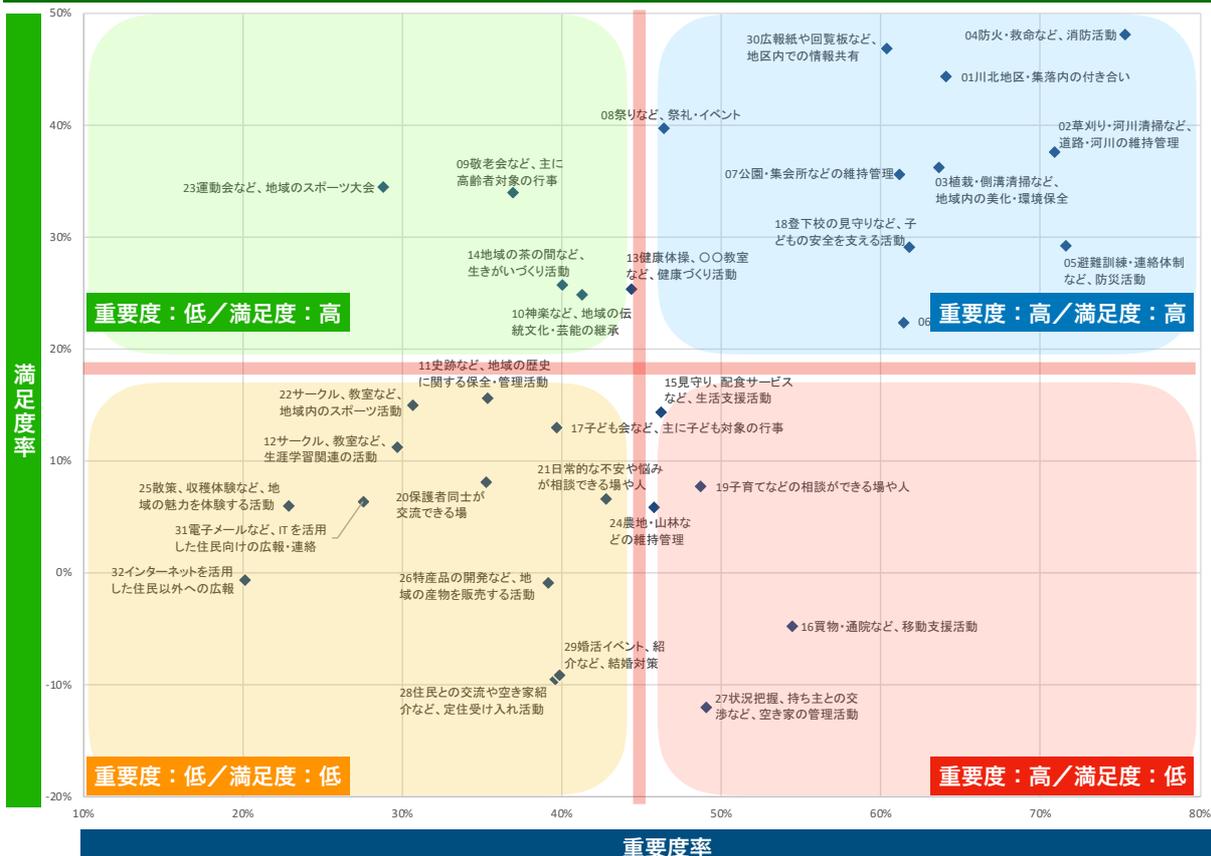


移動販売の利用は70代から

60代から村内のお店で購入する割合が増加

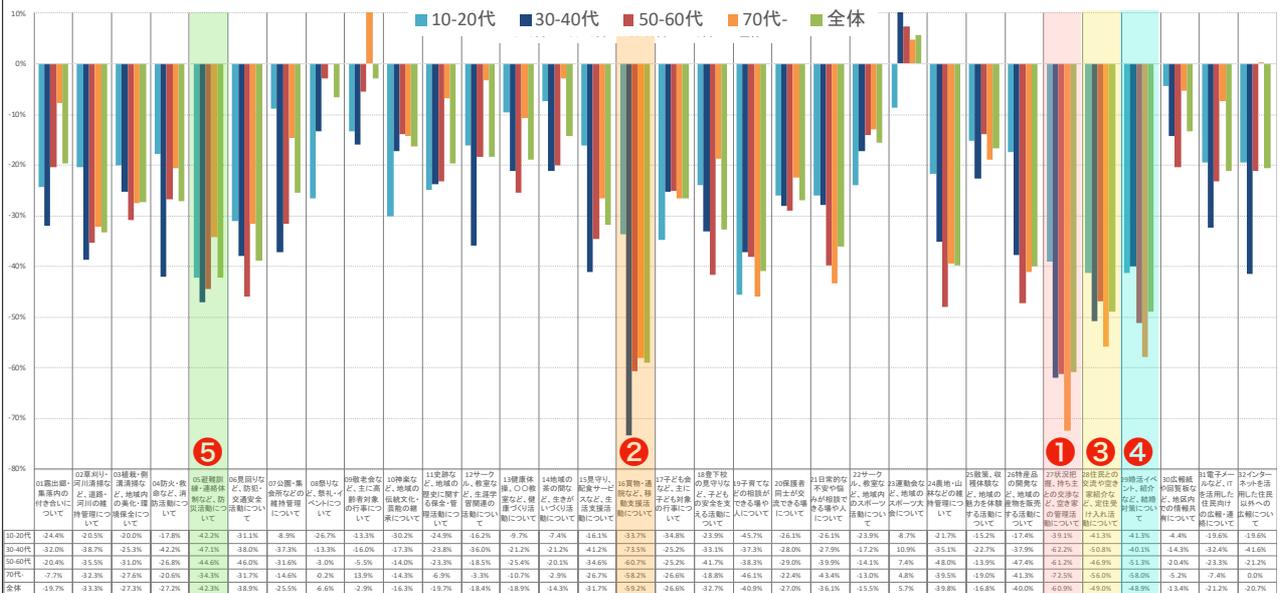
取り組みの満足度と重要度

関川村川北地区 (2018)



取り組みの満足度と重要度の評価 (年代別)

関川村川北地区 (2018)



※グラフが下に伸びているほど、満足度と重要度のギャップがある (=現状では満足しておらず、これからは重要だと思う) 項目

① 状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動

若年<壮年

② 買い物・通院など、移動支援活動

若年>壮年

③ 住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動

④ 婚活イベント、紹介など、結婚対策

若年<壮年

⑤ 避難訓練・連絡体制など、防災活動

若年>壮年

取り組みの満足度と重要度の評価 (年代別)

これからの地域づくりで大切だと思っているテーマ・年代別ランキング (上位)

	全体	10-20代	30-40代	50-60代	70代	
1	27 状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動	-60.9%	19 子育てなどの相談ができる場や人	-45.7%	16 買い物・通院など、移動支援活動	-73.5%
2	16 買い物・通院など、移動支援活動	-59.2%	05 避難訓練・連絡体制など、防災活動	-42.2%	27 状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動	-82.2%
3	28 住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動	-49.0%	28 住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動	-41.3%	29 婚活イベント、紹介など、結婚対策	-50.8%
4	29 婚活イベント、紹介など、結婚対策	-48.9%	29 婚活イベント、紹介など、結婚対策	-41.3%	05 避難訓練・連絡体制など、防災活動	-47.1%
5	05 避難訓練・連絡体制など、防災活動	-42.3%	27 状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動	-39.1%	04 防火・救命など、消防活動	-42.2%
6	19 子育てなどの相談ができる場や人	-40.9%	17 子ども会など、主に子ども対象の行事	-34.8%	32 インターネットを活用した住民以外への広報	-41.6%
7	26 特産品の開発など、地域の産物を販売する活動	-40.0%	16 買い物・通院など、移動支援活動	-33.7%	15 見守り、配食サービスなど、生活支援活動	-41.2%
8	24 農地・山林などの維持管理	-39.8%	06 見回りなど、防犯・交通安全活動	-31.1%	29 婚活イベント、紹介など、結婚対策	-40.1%
9	06 見回りなど、防犯・交通安全活動	-38.9%	10 神楽など、地域の伝統文化・芸能の継承	-30.2%	02 草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理	-38.7%
10	21 日常的な不安や悩みが相談できる場や人	-36.1%	08 祭りなど、祭礼・イベント	-26.7%	06 見回りなど、防犯・交通安全活動	-38.0%
11	02 草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理	-33.3%	20 保護者同士が交流できる場	-26.1%	26 特産品の開発など、地域の産物を販売する活動	-37.9%
12	18 登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動	-32.7%	21 日常的な不安や悩みが相談できる場や人	-26.1%	07 公園・集会所などの維持管理	-37.3%
13	15 見守り、配食サービスなど、生活支援活動	-31.7%	11 史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動	-24.9%	19 子育てなどの相談ができる場や人	-37.3%
14	03 植栽・側溝清掃など、地域内の美化・環境保全	-27.3%	01 川北地区・集落内の付き合い	-24.4%	12 サークル、教室など、生涯学習関連の活動	-36.0%
15	04 防火・救命など、消防活動	-27.2%	22 サークル、教室など、地域内のスポーツ活動	-23.9%	24 農地・山林などの維持管理	-35.1%

各年代が重視するテーマの特徴

子育て支援 / 防災活動 / 定住受け入れ

定住受け入れ / 防災・消防 / 情報発信

農地山林の維持管理

日常的な相談

取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）

これからの地域づくりで大切だと思っているテーマ・年代別ランキング（下位）

全体	10-20代	30-40代	50-60代	70代-
21 01川北地区・集落内の付き合い -19.7%	32インターネットを活用した住民以外への広報 -19.6%	03植栽・側溝清掃など、地域内の美化・環境保全 -25.3%	11史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 -23.3%	22サークル、教室など、地域内のスポーツ活動 -13.0%
22 11史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 -19.7%	04防火・救命など、消防活動 -17.8%	17子ども会など、主に子ども対象の行事 -25.2%	32インターネットを活用した住民以外への広報 -21.2%	13健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -10.7%
23 13健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -18.9%	26特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 -17.4%	11史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 -23.8%	01川北地区・集落内の付き合い -20.4%	01川北地区・集落内の付き合い -7.7%
24 12サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -18.4%	12サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -16.2%	25散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -22.7%	30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -20.4%	31電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 -7.4%
25 25散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -16.8%	15見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -16.1%	14地域の茶の間など、生きがいづくり活動 -21.2%	14地域の茶の間など、生きがいづくり活動 -20.1%	11史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 -8.9%
26 10神楽など、地域の伝統文化・芸能の継承 -16.2%	25散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -15.2%	13健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -21.2%	12サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -18.5%	30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -5.2%
27 22サークル、教室など、地域内のスポーツ活動 -15.5%	09敬老会など、主に高齢者対象の行事 -13.3%	10神楽など、地域の伝統文化・芸能の継承 -17.3%	22サークル、教室など、地域内のスポーツ活動 -14.1%	12サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -3.3%
28 14地域の茶の間など、生きがいづくり活動 -14.3%	13健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -9.7%	22サークル、教室など、地域内のスポーツ活動 -17.2%	10神楽など、地域の伝統文化・芸能の継承 -14.0%	14地域の茶の間など、生きがいづくり活動 -2.9%
29 30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -13.4%	07公園・集会所などの維持管理 -8.9%	09敬老会など、主に高齢者対象の行事 -16.0%	25散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -13.9%	08祭りなど、祭礼・イベント -0.2%
30 08祭りなど、祭礼・イベント -6.6%	23運動会など、地域のスポーツ大会 -8.7%	30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -14.3%	09敬老会など、主に高齢者対象の行事 -5.5%	32インターネットを活用した住民以外への広報 0.0%
31 09敬老会など、主に高齢者対象の行事 -2.9%	14地域の茶の間など、生きがいづくり活動 -7.4%	08祭りなど、祭礼・イベント -13.3%	08祭りなど、祭礼・イベント -3.0%	23運動会など、地域のスポーツ大会 4.8%
32 23運動会など、地域のスポーツ大会 5.7%	30広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -4.4%	23運動会など、地域のスポーツ大会 10.9%	23運動会など、地域のスポーツ大会 7.4%	09敬老会など、主に高齢者対象の行事 13.9%

08 祭りなど、祭礼・イベント
09 敬老会など、主に高齢者対象の行事
23 運動会など、地域のスポーツ大会



満足度（現状で満足している）は高いが、重要度（将来的にはこれが重要）は、さほど高くない。

行事・イベント < 地域課題の解決 という意識の現れ?!

取り組みの満足度と重要度の評価（まとめ）

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

① 状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動

30代以上でこの必要性を強く感じており、特に50代以上は最重要と考えている。

② 買物・通院など、移動支援活動

30代以上がこの必要性を強く感じており、特に30～40代は最重要と考えている。
→送迎される側よりも、送迎している側が切実に求めているのではないか!?

③ 住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動

40代以下と70代以上が、特にこの必要性を強く感じている。

④ 婚活イベント、紹介など、結婚対策

20代以下と50代以上がこの必要性を感じているが、30～40代はそうでもない。

⑤ 避難訓練・連絡体制など、防災活動

40代以下が、特にこの必要性を強く感じている。
→若年層への情報周知不足? 援護する側の担い手不足への懸念?

アンケート結果から見えるポイント①

☑農業従事者の87.2%が60代以上。

→ 将来的な農地の維持管理は大丈夫か？

☑80代になると車を運転する人の割合が減少。

- 日常生活での移動が困難になる人の数は、今後、確実に増加していく。



☑高齢者の移動支援は、今後の重要なテーマだという認識されている。

- 30代以上はこの必要性を強く感じており、特に30~40代（現在、高齢者を送迎している側）が切実に求めている傾向あり。
- 大半が車の運転ができるため、「今は困っていない」状況。ただし、車の運転ができなくなると、日々の暮らしに困る人が急増することは確実。

→ 地域の人口構成を勘案すると、移動支援はすぐに着手すべき課題



☑全体の半数以上がインターネットを利用

- 50代以下は約7割（40代以下は9割）がインターネットを利用しており、大半がスマホ・携帯での利用。

→ 50代以下はインターネット経由での情報伝達の方が効果的?!

31

アンケート結果から見えるポイント②

☑必ずしも「地域活動に参加していない=関心が無い」という訳ではないではない。

- 20・50代が、「関心はあるが参加していない」の割合が高い。
- 「関心あり+不参加」の理由の第1位は「余裕が無い」。こう回答した50代以下の8割以上がこれを理由にあげている。
- 「関心なし+付き合いで参加」の理由では、第2位に「頼まれた」が来ている。
- 現状は30~40代と60~70代男性が頑張っているので地域活動が回っている状態。

→ 多様な地域活動への関わり方を設けることで参加の可能性があるのでは？

→ 直接対話を通じて、さらに理由を深掘りしていくことが必要。

☑20~50代で土曜日が毎週休日なのは約2割、日曜日が毎週休日なのは約4割。平日が休み、不定休が、3~5割という状況。

- この世代は、必ずしも土日が休日ではない。

→ この世代の参加を求めるのであれば、開催日設定の配慮が必要。

32

アンケート結果から見えるポイント③

☑役員世代も中堅世代も、もっと女性・若者の声を反映すべきと思っている。

- 60代以下の男性は「必要」と考えている割合が地区平均以上。
- 特に次の担い手世代である20～50代男性は「必要」という割合が高く、20代女性も「必要」という割合が高い。
- 40～50代は、6割以上が会議出席経験がある。

お互いにその気はある！声を反映させる場・機会の充足・工夫が必要。

会議のあり方・進め方を見直す必要性?!

☑近所づきあいについては、半数が「悩みなし」。しかし、30～50代は「忙しすぎる」という割合が全体平均よりも高い。

- 40～50代は会議出席・役員経験が他の世代よりも高い。
- 60代に比べ、40～50代の人数は1/2以下（30代は1/4以下）である。

人は減っているのに、役割・仕事は変わっていないければ、負担感が増すのは当然のこと。今後、さらに人の数は減っていくのに、このままの状況で大丈夫か？

33

アンケート結果から見えるポイント④

☑地域全体の4割以上が、移住・定住者の受け入れが必要と考えている。

- 40代以下は「積極的に受け入れるべき」という傾向が強い反面、50代以上は「必要性は感じつつも、迷いもある」という傾向が見られる。

次の世代は積極的な定住受け入れを求めている！

☑他地域との交流の必要性については、地域全体では約4割が「わからない」と回答。

- 年代・性別で、かなり意見が分かれている。

交流事業を行う場合は、機運醸成が必要。

34

アンケート結果から見えるポイント⑤

☑地域全体では半数以上が「住み続けたい」と思っているが、40代以下はその割合が地域平均よりも低い。

- 中でも、10代・30～40代女性は「わからない」と回答した割合が大半。

☑地域全体では、「住み続けてほしい」という回答が4割以上。ただし、子育て中の親世代は、「住み続けてほしいとは思わない」の割合が高い！

- 40～50代は「住み続けてほしいとは思わない」と回答した割合が極端に高い。
- 20～30代も地区平均以下。

☑5割以上が「地域に愛着がある」と回答しているが、10代男性の愛着度はかなり低い。

- 10代の「誇りに思う地域資源」についても、「助け合いなどの社会関係」と回答した割合は低く、「誇りに思うものは無い」という回答割合は高め。

次世代が地域への誇り・愛着を持ち、将来への希望を見いだせるような地域づくりが不可避。

35

アンケート結果から見えるポイント⑥

☑暮らしの中の困りごとトップ4は、

- ①屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪
- ②健康面への不安
- ③コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便
- ④農地や山林の維持管理

☑今後、重点的に取り組むべきテーマトップ5は、

- ①状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動
- ②買物・通院など、移動支援活動
- ③住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動
- ④婚活イベント、紹介など、結婚対策
- ⑤避難訓練・連絡体制など、防災活動

困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。

ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。（特に若年層）若年層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。

36